

## 令和3年度 第2回茅ヶ崎市総合教育会議 会議録

議題	1 議題 中学校の授業におけるタブレット端末の活用状況について（授業の視察及び意見交換）
日時	令和3年10月21日（木）午後1時00分～午後2時50分
場所	円蔵中学校
出席者氏名	総合教育会議委員 佐藤市長 竹内教育長 赤坂教育長職務代理者 伊藤委員 大森委員 中馬委員 円蔵中学校 中村校長 円蔵中学校 金井教頭  （事務局）機構順 坂田企画部企画経営課長 三浦企画部行政改革推進室長 伊東企画部情報推進課長 前田教育総務部長 島津教育総務部教育総務課長 戸井田教育総務部教育総務課課長補佐 白鳥教育推進部長 青柳教育指導担当部長 力石教育推進部学校教育指導課長 今井教育推進部学校教育指導課課長補佐
会議資料	・次第 ・資料1 第2回総合教育会議スケジュール
会議の公開 ・非公開	公開
傍聴者	0人

○教育総務課長 時間になりましたので、第2回総合教育会議を開催したいと思います。本日は、円蔵中学校の校長先生及び教頭先生にも会議に出席していただいております。この後、5校時の授業を視察したいと思いますので、よろしく願いいたします。第2回は、中学校の授業におけるタブレット端末の活用の状況についてということで今日のご協議をいただきます。委員の皆様には、前回の総合教育会議の際に実際の端末をお使いいただき体験していただきました。その中で、これからの授業の様子が変わっていますよとか、今後こういう使い方ができるのではないか、あるいはこういった課題がありますということをご確認、協議をいただいたところです。

本日はこの後、実際の授業をご覧いただきまして、前回の協議を踏まえて、視察後にま

たご協議をお願いしたいと思っております。

本日は傍聴者はなしということでございます。

それでは、ここからの議事進行につきましては、要綱第3条に基づきまして、本会議の議長である佐藤市長をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○佐藤市長 それでは、改めまして、こんにちは。それでは、次第に沿いまして、視察に入る前に本日の会議のスケジュールについて説明を事務局よりお願いいたします。

○教育総務課長 それでは、事務局より本日のスケジュールについてご報告をさせていただきます。

資料は資料1でございます。資料の中ほどですけれども、この後、1時25分から2時15分まで校内、5校時の授業の視察を行います。2班体制となっております。班分けにつきましては、資料に記載のとおり、この班分けに従いまして授業のほうの視察をお願いしたいと思います。

その後、2時15分から2時20分まで休憩を挟みまして、2時20分から2時50分まで意見交換をお願いしたいと思います。ご意見をいただく観点でございますけれども、授業を見た感想やどのような変化が見られたか、そういったところをご確認いただければと思います。また、こんな活用ができる、あるいは活用にあたっての課題とか、この半年やってきた中で出てきた部分があると思いますので、そういったことについて現場の先生からご説明をいただきながら皆さんでご協議をいただければと思っております。

その後、2時55分にはこの学校を出発というような予定でございます。

事務局からのご説明は以上でございます。

○佐藤市長 ご説明ありがとうございました。それでは、早速視察に入りたいと思います。

#### [ 視 察 ]

○佐藤市長 どうもお疲れさまでした。それでは、次第に沿いまして意見交換に入りたいと思います。

本日の意見交換の視点は3点と考えております。1つは、授業を見た感想、2つ目は、タブレット端末の導入により授業がどのように変化したのか、そして、もっと活用するために学校現場にどんな支援が必要か、教育委員会事務局のサポート、ICT関連など。本日は校長先生、教頭先生がご出席いただいているので、学校現場において具体的に変化した点についてご協議いただきながら意見交換をしたいと思っております。

なお、この3つに限らずフリーディスカッションで構わないと思いますので、ご意見をいただきたいと思います。大体2時50分を目安に行いたいと思いますので、どうぞよろしくをお願いします。

○伊藤委員 ありがとうございます。まず感想ですが、校長先生とお話をしたところですが、教室の整備がとても行き届いているということを感じました。それから、黒板の横なども、生徒たちの集中を切らさないようにちゃんとカーテンを引いて余分な刺激がなくすとか、あと机や椅子の脚にもテニスボールがつけてあり、机を移動する際にガタガタというのを防ぐこともされている。また、アナログ時計の横にデジタル時計がちゃんと置いてあったんですね。環境整備に努力された上でのICTの環境を整備されているのだと思いました。そんな感想を感じました。

○赤坂委員 まず、学校としての教務上の工夫がよくなされている。例えば特別支援学級のメインで授業をされていた先生は通常級の技術の先生なんですね。そして通常級の体育のほうでは、特別支援学級の担当である先生を体育の授業のほうに入れている。先生方の交流をさせているんですね。これはすばらしい工夫だなと思いました。

それから、全部のクラスの先生がタブレットで良い授業をやっていました。社会科は提案型の社会科授業でしたね。一人一人、美術の先生が、非常に工夫されたやり方をされていて、あれは道徳としても使えますね。非常にレベルの高い授業をそれぞれの先生がされて、もう本当に感心いたしました。

○竹内教育長 私も同じような感想です。まず、教室の中の情報量というのが上手に整理され、タブレットが効果的に活用できていると思いました。以前、学校でいろんなものが貼ってあって、いろんな情報に囲まれているというのが結構多かったんですが、そういう点では、教室の環境の整備の仕方というのが工夫されてきているのではないかなというのと思いました。

もう一つは、子どもたちがタブレットを扱うときに迷いなく使っている。少々の失敗があっても全然へこたれずに扱っているというのがあって、子どもたちが本当にタブレットに慣れている、なじんでいるというか、そういう点では子どもたちがああいったものに親しむ教育になっている、大人ほど垣根は高くないなど。

もう1点、教科によって使い方、先生の使い方があるんでしょうが、教科によってのタブレットの使い方、使う時間ですとか使う量とか、そういったところでうまく工夫されているのではないかな。特に最後に見せていただいた体育というのは、どこでタブレットを

使っているんだろうと思ったら、体育館の2階から試合の状況を撮り、後でそれをみんなで見ながら、振り返るのかなと思っています。そういったところでうまくタブレットで工夫されているんだろうなと思いました。ありがとうございました。

○中馬委員 ありがとうございました。教科によってタブレットのいろんな使い方があるし、使いにくかったりするのかなと思ったんですが、皆さん上手にうまく使われていました。子どもが割とすぐ慣れやすいと思うんですが、先生方もすごく勉強されて、どういった使い方が効果的かというのを探りながら、分かりやすく授業をされているなとすごく感じました。

あと、調べ学習など、1人でタブレットを使ってできそうなんですけど、2人1組やグループで話し合いをしながら、1人で調べないで一緒に調べていました。そういうことが自然にできているし、教え合おうというので、機械だけに頼らず、人との議論を通して、学べるということがいいツールだなと思って、今後も使っていられるのかなというのを楽しみにしています。ありがとうございます。

○大森委員 本日は視察させていただいてありがとうございました。何う前は、生徒さんたちがタブレットを使いこなせていますかという質問を用意してのですが、拝見させていただいたら、教育長もおっしゃっていたように大人以上に使っていて、大人はなかなか追いつきません。でも柔らかい心で本当に上手に使いこなせている上に、先生方の熱意を感じました。これをどうにかいい形に下ろして、生徒と一緒に使って使いこなしていこうという熱意のようなものを感じました。

それから、コロナでいろいろなこと、特に触れ合いがセーブされている中で、タブレットを通していろんな発見もあるでしょうし、それを通して触れ合えるということも感じましたし、タブレット以外のところでは、昼食時の放送も聞くことができました。違うところで心を使って触れ合っているという中学生の姿は非常に感動しました。そういう指導においては先生方のご尽力を感じました。

それから、特別支援学級を見せていただいたときに、いろんなタイプのお子さんがいらして、二十何人をまとめて1つの授業をされることが大変なことなのではないかなとは思っていましたが、生徒さんなりに授業をなされていらして、時間がかかるお子さんには先生がちゃんとサポートして、進められるお子さんはちゃんと待っていらっしゃるのですね。本当に感心しました。

それから、美術の授業を見せていただいたときに、タブレットを使いこなすという目的

もあるんでしょうけれども、それ以外に、先生がおっしゃっていた、「よいところを今日は発見しましょう」というテーマをお与えになっていました。そのときに先生は、仲間だからこそ分かるよさがあるという目線、視点を下ろされたので、子どもたちはすごく分かりやすくお友達の絵の評価ができていたのではないかなと思います。今、タブレット云々というのも、誹謗中傷を書いたり、コメントをすることがはやっていますけれども、そうではないことに向かえるような授業で、赤坂委員も感じられているように、タブレットを通して、それだけの授業ではなくて、心の授業に十分使えていらっしゃるように感じました。本当に先生方の努力が実っている今日は授業参観だったと思います。ありがとうございました。

○中村校長 今日のご参加いただきありがとうございました。また、日頃から教育活動にご理解とご支援をいただきまして本当にありがとうございます。今日の議題について、一応私の方でも簡単にまとめてみましたので、目の前の画面を見ていただければと思います。タブレット端末の導入によって授業がどう変化したかという部分なんですが、主体的、多様な学びというのが今の最大のテーマである。それに向けての効果的な授業が非常につくれるようになってきていると思います。今日見ていただいたように、美術であれば全生徒の作品が一遍に見られるということもそうだと思います。そして、それを使って考えることができます。

それから、授業のユニバーサルデザイン化につながっています。今まではトーク中心の授業が昔から多かったんですが、生徒の中には、聴覚情報をうまく処理できない生徒もいます。それに対して iPad 等を使うことによって視覚的な情報も同時に入れられるため、どんな子にも対応できる教授ができています。

それから、生徒一人一人の学びの状態を把握できる。生徒がどういう意見を出しているのか、書いているのかというのを後でもその場でも一瞬にして見ることができる。これが授業の中での大きな変化ではないかなと思っております。

それから、教師の変化なんですが、今までウィンドウズのパソコンは持ち運びできるものはあったのですが、授業の中で起動する時間、バッテリーの耐久力とかいろんなことがありまして、ほとんど使っていませんでした。私がここで授業をやっているときは、この教室で、パソコンとプロジェクターで、画面をホワイトボードに映してずっとやっていたんですが、それ以外に使っているところはあまり見かけなかった。ところが、iPad という手軽で持ち歩きも便利なものによって使う教科が一気に増えています。

それから、職員が急に休暇を取らなくてはいけなくなったときに、グーグルドライブにプリント等を作っておいて保存しておくことによって、ほかの学年の先生がそこから引っ張り出して印刷して生徒に課題として出すこともできる。そんなことも変わってきたなと思います。

それから、授業での意見交換など試行錯誤の手段がすごく広がったことによって、逆に先生たちもどんなものが出てくるのかという部分で対応する力も必要になってきている。

また、収集した写真や動画の編集が簡単にできますので、教員のアイデア次第でよい活用の幅が広がっている。本校でも活用方法を常に考えながら、それぞれの先生のスタイルができてきているように感じています。

それから、ロイロノートで授業プリントなどをアーカイブ化することで、別室登校の教室に入れないうちへの参加もできる。それも試験的にやり始めています。

また、今は職員室内のペーパーレス化につながっています。例えば職員会議とか企画会議とか、そのたびに会議の資料を先生たちに印刷して配っていたんですが、それぞれドライブに資料を上げて、先生方はみんな会議にiPadを持って、ドライブからその資料を引っ張り出してそれを見られるので、紙の節約にもつながっていると思います。

次に、課題ですが、ネットワークの異常が起こると授業が止まってしまうと、そういう難点もあります。また、教職員が使っているパソコンはウィンドウズで、iPadはアップルです。互換性の問題でうまくいかないこともあるので、できればアップルのパソコンもあるといいなというのが職員のほうからも声が出てきています。

それから、パソコンが動画や画像を使うことが多くなってきているが、その教材づくりにどうしても自分のパソコンでもやったりするが、教員のパソコンのスペックが非常に低いためにしょっちゅうフリーズしてしまったりなどの不具合が起きています。

あとは、どんどんアイデアを出してやろうとするんですが、周辺機器が不足しています。例えば今日英語の授業をやられていた先生ですが、モニターの台数が限られているので、自分で購入し使っています。生徒のため、授業のためという気持ちはわかりますが、職員にそのような負担はさせたくないです。

それから、私の感覚ですが、まだこれから発展して変わっていくのだと思いますが、授業内での生徒と教師の温もりといいますか、要するに先生もタブレットを見ながら、操作しながらしゃべっている。生徒もタブレットを見ながらしゃべる。それは何か寒いです。生徒の顔を見ながら生徒と話し合ったり、そういうものが少し逆に減ってしまってきてい

るかな。これからいろんな授業改善の中でまたそういう課題が出てきているのですが、たまたま今年の3月にiPadを使った授業の研究授業をやったときに、先生たちに、そこら辺をもう少し工夫しようよ。例えば、iPadを見ながら、「誰々さんの作品はいいね」と言うのではなくて、褒めたい子の横に立って、片手でもいいからその子の机に触れながら、「誰々さんの作品はいいね」と言うと大分違ってくる。そういう今までの教育のいい文化をどこかで残していくことも大事ななと思っております。

○金井教頭 本心に校長先生に言い尽くしていただいているので言うことはないですが、私のようにICT機器に疎い職員はまだいます。職員室でこれはどうやってやるのかなと悩んでいると、こうやるといいですよと当たり前のように教えてくれる先生方がいます。また、ICT機器を使った授業の参観に行ったとき、ああ、これは面白そうだなと活用の仕方を尋ねると、今度一緒にやってみませんかと提案してくれたり、「先生、今度こういう授業をやるので見に来てください」と言ってくれたりする先生もいます。ICTを通じてお互いにさらに教え合うというか、学び合うというか、もともと円蔵中の職員は温かいので土壌があるのですが、ICTを通してまた温かい交流が生まれてうれしいなと思っているところです。

○竹内教育長 質問よろしいですか。iPadを導入したことで、授業の進み方とか、年間の指導計画の進捗とかというのもどっちなのかなと。進むほうに行っているのか、それとも、その準備やら活動の取組方で、授業の進み方がゆっくりになったりとか、そういう変化というのは今までにあるものですか。

○中村校長 私がしている感覚なんですけど、進み具合は、今まで先生方が体にしみついてきているペースなんだろうと思います。ただ、変わってきているのは、今までいろんな例えば見せたい子どもの作品を貼っている時間だとか、話し合った結果を班ごとにこの小さいホワイトボードに書いてとか、そういう時間が短縮されるので、これまで意外と持てなかった考えを共有する時間、共有した後にまた個人に戻して個人で考える時間、これがなかなか持てないときがあったんですけども、今はそこまで持てているのではないかなと感じます。

○竹内教育長 授業を今日見させていただいた中で、校長先生がおっしゃるように、授業の活動の中でロスタイムが少ないなと思いました。そこはかなり整理されているだろうなと思うのですが、もう一つ、時間を保障してあげるということはすごく大事ななと思います。貼り返る時間というのは確かにロスタイムかもしれないですが、そこをまた子どもた

ちに、校長先生がおっしゃられたように待ってあげる時間であるとか、ほんの少し自分の中でゆとりを持つ時間、そういうのは授業の中でもやっぱり必要なんだと思うと、タブレットのようなこういう機器を使うことでのよさと、もう一つ、そのことで授業の1時間の中がどんどん忙しくなっていってしまって追いついていかない子どもが出てきてしまうと心配かなというところがあったのですが、そういうところが私から聞いてみたいなど思ったところです。

○中村校長 逆に支援が必要な子への時間も取れる余裕が出てきているのかなというのと、あとは、授業の中での結果がリアルにすぐに分かる。例えば社会の授業の最初で、「この人知っている？」と出して、知っているか、知っていないかというのも、すぐそこで一人一人が入力すると一気にグラフ化されてぽんと出る。例えばオンライン授業のリハーサルでも、こんなアンケートを生徒に出して、その結果がすぐにでる。だから、次の時間に集計して見せるのだと、子どももちょっとトーンが下がってしまうんですが、リアルタイムで結果が出るので、すぐに話題に入れる。すごくそういう面でいいですね。

○伊藤委員 意見も集約できますよね。

○中村校長 すぐにできます。あと先生の中では、自分の授業評価を、今日の授業で例えばどんなところが分かったか、どんなことが分かっていなかったかとか、何が分かりづらかったかとかというのを何か作っておいて、授業が終わった後に先生は振り返りでこれをばばっとやると、一瞬にして今日の授業をどこがやっているというのが分かる。

○竹内教育長 校長先生がお話しされながら、滑らかにどんどん。それを見て、すごい使いこなし方、学校はもう進んでいるなと感じました。

○佐藤市長 生徒たちは穏やかですね。私が中学生の時からすると、だいぶ時代が変わったなという印象を持ちました。

○中村校長 今、市内どこの中学校も穏やかだと思います。特に円蔵中、自分が言うのも何ですが、体育を見ていただいても分かるように、幼いというか、穏やかで、人なつっこいです。でも、安心して学校生活を送っているように感じます。

○伊藤委員 今の話ですが、さっきの私の話に関係するのですが、子どもたちが穏やかになったと同時に、穏やかになる環境を先生方が整備してきたということが私は大きいのではないかと思います。やたら刺激がある教室とか、やたら椅子がやたらガタガタする教室というのは、そういうことが苦手な生徒たちにスイッチを押してしまって、教室を出ていくとかが起こるのではないかと。



○中村校長　そうですね。特に主体的にとというのが言われ始めてから、班をつくってとか、友達の意見を見に行ったりとかと動かすことが多くて、そのたびにガタガタとすると、騒がしい心の状態になるので、やっぱりにぎやかになってくる。そうすると收拾がつかない。そうすると結果として、先生が怒ることになる。でも、音を消すことによって落ち着いて行動ができる。そうすると褒めることができる。そうするとまた適切な行動を引き出すことができる。

○伊藤委員　質問をよろしいですか。2つあって、1つはパスワードの管理をどうされているのか。他の自治体で全員が同じパスワードだったというのがあって、さっきお尋ねしたら、別々のパスワードにしていますということだったので、その管理はどうされているのか。生徒は自分のパスワードを知っているわけですね。では、教員はどういうふうに生徒のパスワードを管理されているのかをお尋ねしたいです。

○中村校長　パソコン委員の長が全て一応管理しています。ただ、どこまでセキュリティーがあるかという点、正直、悪用しようと思ったら多分あつという間に悪用はされてしまう危険性はあるかなと思うんですが、事務局の方から。

○学校教育指導課課長補佐　パスワードの管理ですが、全員違うパスワードの英数字、大文字などでつくっています。今後は、パスワード変更を各家庭でもお願いして個人で管理をしていきます。ただ、学校としてパスワードを知っていないと、「先生、パスワードを忘れた」となったときに困りますので、学校でも管理はしていく必要があると思います。ただ、そこは厳重な管理に、成績と同様に扱っていく必要があると思います。

○伊藤委員　パスワードの事件が起こったときにテレビで、そんなの先生がチェックしろよとかと言っている人がいて、いや、それはちょっとできないではないかと思ったんですが、そういう点はどうなのでしょう。

○学校教育指導課課長補佐　本市におきましては、チャットの機能とメール機能、YouTubeや危険なサイトにアクセスできないようなフィルタリングソフトを導入し、制限をかけています。ただ、制限をかけることによって、もう少し使い勝手をよくしてほしいという声もあるんですが、できるだけ子どもにあまり余計な情報を与えないようにしています。

○伊藤委員　ありがとうございました。時間がない中で1問だけいいですか。全国のアンケートを見ると、ICTを導入したために一部の教員に負担が行っているのではないかと、そういうのはどうでしょうか。あるいは、先生によって授業が違っ

てきたというか、ICTを使って面白い授業とつまらない授業があるみたいなことを生徒がアンケートに書いているんですね、全国の調査だと。その点はどうでしょうか。

○中村校長 一般的にあり得る現象だとは思いますが。ただ、本校は、たまたま各学年の中に、導入当初からたけている人が必ずいたんです。その人が起爆剤となって使い出して、学年の例えばアンケート集計をしよう、ではこれでやろうとやるその便利さを先生たちが知り、先生たちも怖がらずに使い出したので、本当にほとんどの先生が使って授業、何かしらに使っているので、多分本校の生徒からしてみれば、あの先生とこの先生というそこまでのあれはまだないかなとは思いますが。

○佐藤市長 他にご意見がなければ、事務局より事務連絡をお願いいたします。

[事務連絡]

○佐藤市長 それでは、本日の日程は全て終了しましたので、第2回総合教育会議を終了します。お疲れさまでした。